

## 2025年度・茨城県立高校倍率決定

茨城県教育委員会は令和6年2月18日、2025年度茨城県立高校の入学志願者数等(志願変更後)を発表しました。県立高校9校と1つの分校の全日制と定時制はあわせて1万8190人の定員で募集し、これに対し、県教育委員会が2月11日に発表した志願者の数は1万7621人となりました。2024年度に比べて168人減少し、平均の志願倍率は0.97倍と1倍を下回りました。しかし、その中でも常総エリアは、競争倍率が1倍を下回る高校は、ほとんどなく、競争が激しい地域となっています。倍率が最も高かったのは、取手第二の1.68倍、次いで水戸第一の1.65倍、水戸工業の1.55倍ととなっています。県立高校の入学試験は2月27日に学力検査がおこなわれ、28日に特色化選抜の面接が行われます。3月12日(水)午前9時から合格者の発表がWEBサイトで行われます。

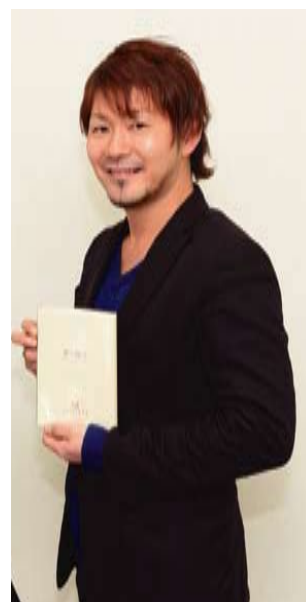
## 県西地区では、倍率が1倍以上が普通になる

茨城県の人口が令和5年度で減少に転じた。その中でも、人口の増加を続けるのが筑波市、守谷市、つくばみらい市などの県西地域・県央地域です。特につくば市は近年全国でも有数の人口増加都市になっています。また人口に比して筑波市、守谷市、つくばみらい市に県立高校は、5校しかありません(常総市は3校)。偏差値が65相等的の竹園高校(筑波市)の次のレベルの県立高校といえば、この辺りだと下妻第一・水海道第一高校が名前上がる。これは近隣のつくばみらいや守谷市でもあまり認識の差はないでしょう。近年、高倍率だった水海道第一高校は、定員40名減になりましたが令和7年の受験倍率は1.22倍と昨年度1.33倍を下回りました。竹園高校も昨年度1.31倍から志願者数も今年は減りました。



高校	学科	定員	応募	変更後	増減	倍率
水海道第一	普通	201	243	245	2	1.22
水海道第一	(特色)	20	27	28	1	1.40
水海道第二	普通	120	132	125	-7	1.04
水海道第二	(特色)	24	12	12	0	0.50
水海道第二	商業	80	85	81	-4	1.01
水海道第二	(特色)	16	10	10	0	0.63
水海道第二	家政	40	54	45	-9	1.13
水海道第二	(特色)	10	8	8	0	0.80
取手第一	総合	240	306	292	-14	1.22
取手第一	(特色)	36	46	44	-2	1.22
伊奈	普通	240	274	279	5	1.16
伊奈	(特色)	36	56	53	-3	1.47
守谷	普通	240	252	266	14	1.11
守谷	(特色)	60	49	56	7	0.93
下妻第一	普通	201	278	252	-26	1.25
下妻第一	(特色)	24	43	36	-7	1.50
下妻第二	普通	280	314	297	-17	1.06
下妻第二	(特色)	42	65	58	-7	1.38
牛久栄進	普通	360	497	466	-31	1.29
竹園	普通	320	385	377	-8	1.18
藤代	普通	240	272	268	-4	1.12
藤代	(特色)	28	33	34	1	1.21

## 経営者連載 『自己管理力を鍛える』



どんな〇〇が好き?の中で、将来を考えるにあたってよく考えていた方がいいものがあります。それは、「どんな人が好き?」です。自分が好きな人というのは、憧れる人間像ですから、それを将来の自分のイメージにつながることでできれば、大きな指針となるでしょう。有名人に憧れる人も多いと思いますが、気をつけてほしいのは、将来の自分に結び付けて考える際に大切なはその人の職業ではなく、その人の仕事の仕方であったり、物事の考え方であるということです。たとえば野球選手の内チロー選手が好きの場合、自分もイチローのような野球選手になるかと考えることも良いのですが、それよりも参考にすべきなのは、野球人としての考え方や、トレーニングへの取り組み方です。そこから学ぼうとすれば、野球以外のスポーツにも結び付けられますし、スポーツ以外の仕事にも結び付けられると思います。

以上のように、好きなことを普段からイメージしたり確認することは、将来やりたいことを考える上で大きな指針になります。そして心がけていただきたいのは、それを「大切にすること」です。「好きな色(赤)」を守り抜くことは割と簡単ですね。ただ、多くの場合、好きなことを続けることというのは、困難を伴うものですが、サッカーが好きで始めたけれど、練習がきついか、かっこいいからテニスをやってみたくて、全然うまくならないとか、一番多いのは人間関係かもしれませんね。そのときに、それを続けようかやめようか、悩むと思います。もちろん周りの人に相談するのはいいですが、最終的に決めるのは自分です。そのとき決め手となるのは、「好きかどうか」です。好きなら頑張る、嫌いならやらない、くらいで良いです。また、人の好みは変わります。「好きだから始めたけど、後執することではないから大丈夫。大切にすることは、必ずしも固執することもあるかもしれませんが、そうやって試行錯誤しながら、経験というのは増えていくものです。その経験は、将来必ず役に立つといっってよいでしょう。



## ◇穂戸田勇一先生が引退されます



◇穂戸田先生から◇  
2009年から塾講師を始め、2回の大学生の間、ご縁あって計11年にわたって塾の講師としてお世話になりました。  
思い返せば、初めは白板の前に立つ緊張した授業の日のように思い出されます。当時教えていた教員も今や30歳を過ぎ、なんだから少ししみじみしてしまっています。  
生徒の皆さんには、いつかは引退されます。4月からは、医師として多くの人の命を救うために茨城県内の病院で勤務されます。  
なお、引退後は医療系などの小論文、志望理由書などのアドバイザーとして、受験生たちの合格をサポートしていただく予定です。3月でもう授業をすることができなくなりますが、引き継ぎ、合格に向けて何らかの院進学も考えましたが市役所で協力してくれます。その後大学所へ就職の道を決めました。それでも医学への想いを諦めきれず、仕事の傍ら医学部を受験し合格しました。諦めないで夢を追い求めれば、きっと夢を掴むことができます。これが私の座右の銘です。どんなに辛いことがあっても、夢の実現のために頑張ればきっと何かを掴むことができます。みなさんの輝かしい未来を応援しています。今まで本当にありがとうございました。

